

いけちゃん通信 Hello!!

第3号

ハローランチいけちゃんの経営理念

- 一、わたしたちは、おいしくて安心できる食品を提供します。
- 一、わたしたちの使命は、お客様に健康と安心と満足をお届けすることです。
- 一、わたしたちは、食品を通して地域社会に貢献します。
- 一、わたしたちは、社員の豊かで幸福な生活を実現します。

狂牛病特集
第一弾

狂牛病は肉骨粉を与えた動物に発生しています。

狂牛病については皆さんも毎日のように報じられているので良くご存知のことと思います。

氾濫する情報の中で牛肉について恐怖心を持っている消費者も沢山います。

そんな中で当社が使っている牛肉についてもお客様から多くの問い合わせがあります。

脳に無数の穴が開きスポンジ状になってしまう。

狂牛病とは、変異プリオンを体内に摂取した牛が10年から20年の潜伏期間を経て発病し、脳細胞に無数の穴が開いたようになり、立てなくなったり、衰弱したりする病気です。

350度でも死なない病原物質

原因は、脳や脊髄、目などに含まれるプリオンが自然界に存在しない異常プリオン(350度でも死なないたんぱく質)を含むえさを摂取することによって、食べた牛の脳や脊髄を侵し始めることによります。

肉骨粉で広がりました。

イギリスで発生したこの病気は、狂牛病で死んだ牛の肉や骨を破碎し、脂肪取り除き、粉にした肉骨粉にし、牛などの家畜に栄養価の高い飼料として与えたことによってイギリスからEU諸国に広がりました。

今日本で問題になっているのは、そのイギリスで作られた肉骨粉を飼料として日本の牛に与えていた為、日本の牛に、狂牛病(異常プリオン)に汚染されている可能性が高くなったことによる不安が日本中に起こっています。

危険部位を食べると人も狂牛病に罹ります。

この狂牛病に汚染された牛の危険部位を食べ

た人間が、新ヤコブ病にかかり、牛と同様に脳の中に空洞ができ、確実に死んでゆくことが分かってきたので問題になっているのです。イギリスやヨーロッパではすでに人の発病者、死者が出ていますし、健康な人も現在潜伏期間中で、数年後に発病し死ぬという可能性があります。

大麦だけで育てた

オーストラリア産大麦牛を使用します。

当社では牛肉の産地、物流の明確な牛肉を使って行きます。

当社が以前から使っている牛肉は、ニッポンフードのオーストラリア産の大麦牛です。オーストラリアはEUが発表した「狂牛病発生危険性リスト」によると肉骨粉を使っていないので狂牛病の発生はほとんどないレベル1となっています。日本はレベル3、イギリスはレベル4です。

お肉の仕入先には当社にはこの大麦牛を納品するという確認書を提出してもらっています。よってこの大麦牛の仕入ルートが健全なうちは、当社がお弁当に使っている牛肉自体は安全だと考えています。

生産国が肉骨粉に汚染されていない国であること、加工工場と物流が明確であることを考えるとこの肉がプリオンに汚染される可能性は極めて低いと考えられます。

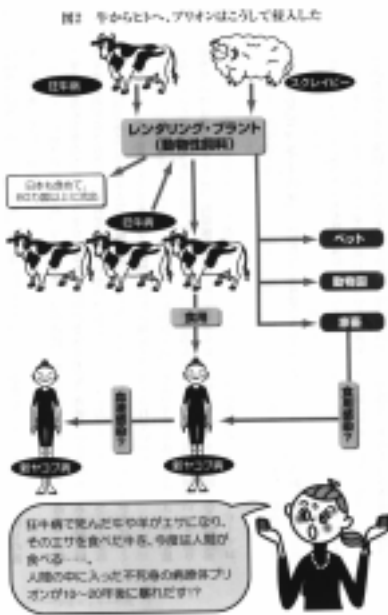
今後、このオーストラリア産の牛肉に疑義が発生したり、入手困難になった場合は、他国の牛肉を探したりせず牛肉使用を避けようと考えています。



大麦牛で育ったオーストラリア産の大麦牛を使用しています。

生産地と加工工場がはっきりしていない食材や加工品を使用することのほうが、お客様に対して無責任だと考えます。

毎日食べても安心なお弁当だよ！



全ての食材について再調査します。

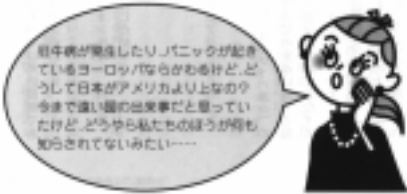
凍食品などについては、メーカーに問い合わせしていますが、食材の生産国と加工工場が分からない間は、それらの食材お弁当に使用することを中止いたします。

また各仕入先に対しても、全納品食材に関して、牛肉、牛脂、ゼラチン、ビーフエキスなどの牛由来の製品が混ざっていないか、混ざっている場合は、材料となった牛の生産地と加工工場を明記し、10月末までに提出してもらうように通知しています。牛以外の食材については11月末までに全材料と食品成分表を提出してもらうようにしています。

インスタントラーメン、ウインナー、カレー、いなりあげ、ビーフコンソメ、キャンディー、ゼラチン、化粧品(コラーゲン)にまで牛肉由来品が入っているものがあるのをご存知ですか。

表5 刊が発表した「狂牛病発生危険性リスト」

狂牛病発生確率 リスクが低い	イギリス、オーストラリア
狂牛病発生 可能性あり	ドイツ、フランス、スペイン、ベルギー、デンマーク、アイスランド、イタリア、ギリシャ、オランダ、オーストラリア、アメリカ、スイス、フィンランド、ポーランド、アルゼンチン、エストニア、スロバキア、ポーランド、ハンガリー、チェコ(2001年発生)、日本(2001年発生)
狂牛病発生 可能性は ないとはいえない	アメリカ、カナダ(イギリス産牛では発生)、インド、パキスタン、ロシア
狂牛病発生は ほとんどない	アルゼンチン、オーストラリア、チリ、コロンビア、シンガポール、ブラジル、パルマ、ニュージーランド



仕入先各位

有限会社池田食品工場
代表取締役 池田一夫

当社としまして、お客様に安全と安心をお届けする責任があります。いくつかですがお客様から「食材経由で狂牛病にかかる心配はないのか」と問い合わせもあります。お客様に正しい解答をするためにも、当社が使っている食材の成分、特にその中の牛製品(牛肉、牛脂、牛エキス)の牛の産地と生産工場については明確にご回答頂きたいと思っております。つきましては下記のようにご協力願います。

記

当社に納品頂いている商品ごとに調査頂き、商品ごとの牛肉、牛脂、牛エキスの使用の有無と、使っている場合は牛の生産地と加工工場の証明書をメーカーから取り寄せて頂き、10月末日までにご提出頂きます。

当社に納品していただいている全商品について、食材なら全材料名を、加工製品の場合は全食材名と食品成分表をメーカーから取り寄せて頂き、11月末日までにご提出頂きます。

新商品の紹介をしていただく場合は、サンプル、価格表、食材表、食品成分表を一緒に提出して頂きます。その際、牛肉と牛製品が原材料に含まれている場合は、1と同様に、牛の生産地と加工工場の証明書を添付してください。

同封した納品商品一覧の中で価格、規格等の変更や廃盤などがあればご記入下さい。(10月末日まで)

以上

三五館 本体1200円+税



この本は狂牛病について書かれています。とても過激な内容ですが、是非読んでみてください。

仕入先に対してこの文章を出し、調査しています。

ホームページもご覧ください。
<http://www.ikechan.co.jp>

有限会社池田食品工場
愛媛県新居浜市庄内町3-11-24
電話 0897(33)8311
Fax 0897(33)8319
Email info@ikechan.co.jp

お客様からのご意見をお待ち致しております。
クレーム、不満、改善要求、ご提案等ありましたら上記までお願い致します。